

就職活動生に贈る!



ベンチャー通信 主催

急成長ベンチャー企業に
就職する学生3人

ホンネ座談会

~ベンチャーを選んだ理由とは~

あらき ゆうすけ
荒木 祐亮

1980年静岡県生まれ。筑波大学卒業後、大学院に進学。経営政策・科学研究科において「まちづくり」を勉強する。将来は、「地域プロデューサー」になりたく、プロデューサー的人材を求めるITベンチャー、株式会社ガイアックスに内定。2006年4月に入社予定である。



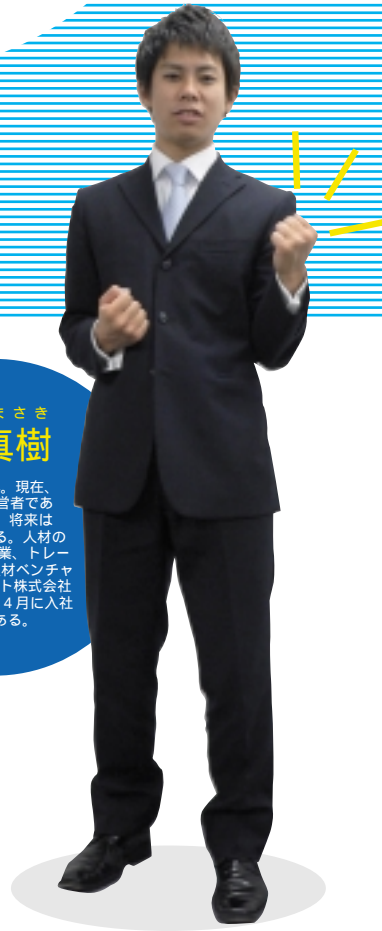
おぎの かなこ
荻野 佳奈子

1983年東京都生まれ。現在、成城大学経済学部4年生。経営学科にて経営について学ぶ。ベンチャー企業の経営者に対して、アライアンスやビジネスマッチングの企画提案、プロモーション代行など成長支援事業を展開するブレジデツ・データ・バンク株式会社に内定。2006年4月に入社予定である。



まつなが まさき
松永 真樹

1982年大阪府生まれ。現在、創価大学4年生。経営者である父親の影響を受け、将来は経営者を目指している。人材のコンサルティング事業、トレーニング事業を行う人材ベンチャー、アチーブメント株式会社に内定。2006年4月に入社予定である。



まずは、お名前、大学名、就職先を教えてください。
荒木：筑波大学院修士課程2年の荒木祐亮です。就職先はガイアックスというITベンチャー企業です。最近になってようやく何をやっている会社か分かってきました(笑)。簡単に言うと、オンラインコミュニケーションの企画や構築、運営をやっている会社です。と言ってもよく分からないと思いますが(笑)。
荻野：成城大学4年生の荻野佳奈子です。就職先はブレジデツ・データ・バンク(以下PDB)という設立3年目のベンチャー企業です。一言では何をやっているか言えないような会社です(笑)。あえて業種で言うならコンサルティングかな。ベンチャー企業の社長に、アライアンスやビジネスマッチングの企画を提案する、ベンチャー版の仲人みたいな仕事ですね(笑)。
松永：創価大学4年生の松永真樹です。就職先はアチーブメントという、人材教育のベンチャー企業です。個人と法人に対して目標実現のコンサルティングをしています。会社の名前のとおり、夢や目標の達成に命を懸けている会社です。
就職活動は、いつ頃から始めたんですか？
荻野：私は、すごく遅いですね。実際に動き始めたのは1月の終わりくらいからです。リクナビにエントリーしたのは11月くらいですが、3ヶ月くらいはリクナビに全く触れていませんでした(笑)。ずっとゼミナールの論文製作をしてました。
荒木：就職活動を始めたのは、12月1日にリクナビにエントリーをしてからです。本当はもっと早く始めたかたのですが、大学院の研究などが忙しくて11月いっぱいは無理だったんですよ。周りは動き始めてましたけど、「自分は自分だ」と割り切って、



Yusuke Araki

のアーチブメントは魅力的でした。それに周りの仲間も、そういった成長欲のある優秀な人が多かったため、ここなら仲間と共に成長していけると思ったんです。荻野：私は、PDBに内定をもらってからは、最終的にどこに行くかを決めるのに2ヶ月かかりました(笑)。今、振り返るとこの2ヶ月は本当にいい時間だったと思っています。大企業だと、内定を出してから1週間以内に、入社するという「誓約書」を書かないといけないんです。でも私が内定をもらったベンチャー企業はそうではなかった。自分が納得いかないことや、聞きたいことがあるのなら、それを解決するような機会を与えてくれたんです。その中でも、PDBは社員が10名ぐらいの超ベンチャー企業なので、特に不安も大きかったですよ。だから、その不安を解決するためにインターンを経験させてもらいました。普通の会社では、採用期間中にインターンができるというのは珍しいと思います。でも、そのおかげで会社の実状を深く理解することができたんです。それから、思いついた不安点は社員さんにガンガンぶつけていきました。そうすると、不安が期待に変わる答えを返してくれちゃう

んです。いろいろ動けば動くほど、この会社の未来に対してワクワクしてきました。最後の一押しは、人事の方に言われた「とりあえず1年働いてみてココは違うと思ったら俺の見る目がなかったら」と思って、そのときは辞めれば良い」という言葉でした。「ああ、カッコイイこと言うな」と(笑)。それで、PDBに決めました。荒木：僕もガイアックスの社員の方たちと会って話をするたびに、会社の印象が良くなっていききましたね。事業内容を話してくれる訳ではなく、仕事への取り組みなどを話してくれるんです。そうやって社員の方と話していると、なんか何でもできる気になってくるんですよ。「この人たちなら何でもできるな」と。そして、「自分も何でもできるな」と(笑)。大企業の人たちと話をしていても、既存の枠組みでしか話してくれないんです。「こういう事ってできますか?」って聞いたら、「うーん、できなくはないけど...」みたいな感じで、でもガイアックスの場合だと、逆で自分で何でもできると思わせてくれた。それがガイアックスに決めた大きな理由ですね。



Masaki Matsunaga

12月から始めることにしました。松永：僕も遅いですよ。実際に企業をまわり始めたのは2月からなんです。それまでアメリカに語学留学をしていて、実は3月まで日本に帰るつもりはなかったんです。でも、先輩とかに「早く日本に帰って、早く就活をしないとヤバイぞ」と言われて(笑)。それで焦って、留学先でリクナビにエントリーをして、1月に帰国して就活を始めたんです。就活では、どれぐらいの企業をまわられたんですか? 松永：だいたい130社まわりました。一同：おー！すごい！ 松永：まわり始めたのが遅かったんで、1日3、4社をまわってましたね(笑)。エントリーしたのは250社ほど。「一括エントリーではなく、1社1社しっかり選んで

20社ぐらい。面接に行ったのが7社です。ちなみに、何社から内定をいただいたんですか? 荒木：船井総研、日本エル・シー・エー、リクルート、博報堂、ガイアックスの5社です。一同：すごい！有名企業ばかりじゃないですか。荒木：他の同期は、大手商社や外資系コンサルを蹴ってくる人もいますよ。僕たちは自分たちが今後、会社のコアになっていくという気持ちがあるんです。荻野：私はベンチャー企業ばかりなんです。ソフトブレイン、ベンチャーコントロール、リンク・ワン、PDBの4社です。私も荒木さんと同じく船井総研を受けていたんですが、最終面接で落ちちゃいました(笑)。

エントリーしてましたよ。それで、選考まで進んだのが60社ほどです。荻野：私は、100社ほどにエントリーして、50社ほど訪問しました。そのうち選考にまでつなげたのは30社ぐらいです。荒木：僕は少ないですね。エントリーが

後輩へのメッセージ

僕は最初、ベンチャーというのに偏見があって全く寄りつかなかったんです(笑)。でも今は**ベンチャーって素晴らしい**と思います。だから、もっといろんな企業を見てあげれば良かったかと、少し後悔しています。なので、後輩の皆さんには、そういった**偏見なしにいろんな企業を見てほしい**ですね。そして、いろんな社員の方には、最初から選択肢を狭めてしまうのもったいないので。



.....荒木祐亮

一番言いたいのは「**自分らしくあってほしい**」ということですね。面接でも何でもウソはついてほしくない。人にはそれぞれ良さがあるのでムリに自分を偽る必要はないんです。**ありのままの自分**で企業に受け入れられないなら、ただその企業と合わなかった話。偽った自分で内定をもらっても、いつかツラくなるだけです。だから長期的に見たら自分らしくやるのが大切なんです。自分らしくしっかりと頑張ってください!



.....荻野佳奈子

「**自分が会社を選んでいるんだ**」という気持ちで就活に臨んでほしいですね。特に大企業を受けていると、「どうやって自分を選んでもらうか」って気持ちになってくるんです。でも、それだと就活が終わってから悩むことになる。私の周りの友達も、内定をもらって「この企業で本当に良かったのかな」と、今の時期でも悩んでるんですよ。だから、「自分が自分が」っていう**ある種のジコチュウ**でやったほうがいいですね。



.....松永真樹



Kanako Ogino

松永：僕は、人材系の会社が多いですね。スタッフサービス、パソナ、エンジャパン、ニッセン、トランスコスモス、マスターピース、アーチブメントの7社です。その中から、アーチブメントを選ぶことに迷いはなかったですね。みなさん多くの内定をもらっているんですが、その中から今の企業を選んだ理由は何なんですか? 松永：アーチブメントには、選考の中にアチシップというインターンシップがあるんですが、やはりその経験がすごく大きいですね。それがあったから、迷わずアーチブメントを選びました。アチシップとは、チームでミッションを解決していくインターンシップで、スゴク自分自身が成長できるんです。それに、みんなでミッションを解決するんで、仲間意識が芽生えてみんなとスゴク仲良くなれるんです。僕は、将来的に起業をしたいと思っているので、自分が成長できる会社というのが、就職のときの大きな選択基準でした。そういう意味で、自分が大きく成長できる環境

